

半導体工場の立ち上げに向けて

JASM 株式会社

中山 篤志

1. はじめに

私は 2023 年に大阪__大学大学院工学研究科物理学系専攻応用物理学コースの博士後期課程を修了しました。同年 4 月には、JASM 株式会社に入社しました。JASM 株式会社は、台湾の半導体製造会社である TSMC の日本初の生産拠点として設立された新しい会社であり、私はその新卒一期生にあたります。この新たな半導体製造拠点の立ち上げに関わることは、日本の産業界においても非常に重要な役割を担うという責任感とともに、大きな挑戦でもあります。今回は、仕事の様子と今後の抱負について簡単に述べたいと思います。

2. 更地からのスタート

学生時代、私は光の研究に取り組んでいました。具体的には、3 次元光ナノ造形や顕微分光が可能な装置の開発をしていました。研究そのものも非常に面白かったのですが、それ以上に、まっさらな光学定盤にレーザーや光学素子、顕微鏡を配置し、複雑で独特な装置を組み立てていく過程が好きでした。自ら立ち上げたものから得られる知識や経験は、何物にも代えがたいものでした。そんな中、TSMC が熊本に新しい工場を立ち上げるという話を聞きました。東京ドーム 4.5 個分の広大な更地からのスタートです。この希少な成長の機会を逃したくないと思い、私は今の会社に入社することを決意しました。もっとも、私の役割は工場の建設そのものではなく、入社後すぐに台湾に渡り、工場が完成するまでの 1 年間、TSMC 本社で技術研修を行いました。TSMC は台湾中の優秀な人材が集まる場所であり、その従業員たちは皆、結果を重視し、非常に高いスピード感を持って柔軟に問題解決に取り組んでいます。このような環境で得た経験は、日本の大企業では味わうことが難しいものだと思います。現在では、その経験を活かし、熊本の工場での生産の立ち上げに取り組んでいます。まだ 2 年目ではありますが、日本人の年長者（博士卒の報酬？代償？）として、チームを引っ張りながら、責任を持って仕事に取り組んでいます。

3. 後悔と抱負

仕事は主に英語で行っていますが、TSMC 社員の多くが母国語とする中国語が理解できれば、さらに活躍の幅が広がると感じる事が多々あります。日常の何気ない雑談から得られる情報も多く、そうしたコミュニケーションが円滑にできれば、もっと有益な経験が得られると思うことがあります。残念ながら、現在の私では中国語は簡単な言葉しか理解できません。振り返ると、大学生活の中で中国語を話す留学生と もっと積極的に交流し、練習しておけば良かったと後悔することもあります。中国語を一例に挙げましたが、大学には様々な国からの学生が集い、多くの活動が行われており、多様な経験を通じて学ぶことができる最高の場所であったと再認識しています。当時は研究に専念していたため、こうしたことに気づくのが遅れたのかもしれませんが。

今後の抱負としては、仕事に全力で取り組むことも重要ですが、時には視野を広げ、少し遠回りに見えることにも挑戦してみたいと考えています。

(学部：応用自然 2018 年卒、博士前期：精密科学・応用物理学 2020 年卒、博士後期：物理学系専攻 2023 年卒)